

第1～3回会議までの意見内容とりまとめ

※当該資料は、第1～3回会議の委員意見を踏まえ、事務局が整理したものです。

総合政策部 政策推進課





【「若者意識調査」アンケート結果（速報版）について】

（子育て）

- アンケート結果は予想通り。子育て世代にとって魅力あるまちとは何かを考えていければ良いのではないかと感じる。
- 子育て支援が重要という結果に対して、市の支援が少ないように感じる。
- 子育てに悩みを抱えている人の意見がデータとして出てきたかなと感じる。
- 住む場所に関しても、子育ての関心が高いことが分かった。
- たくさんの思い出があるというのは、そこに住んだから愛着があるということで、子育ての根拠にもなるのではないかと感じる。

（情報発信）

- 市が力を入れるべきだということについて、スポーツやアートの充実が低い結果であり、市のやりたいことと市民のギャップがあるように感じた。
- 情報手段を認識してもらうことも大事。

（デザイン）

- デザインの意味するところ、効果は伝わりにくかったかなと思う。
- 使いやすさとかの次元に落とすと伝わりやすくなるかなと思う。

（シビックプライド）

- 市の自慢については、実際住んでみないと分からないことが多いことだなと感じた。
- 市外に移りたい理由で多いのが、「レジャーや娯楽施設などが少なく、充実した余暇が過ごせない」であるが、逆に住む場所を選ぶ際に重視することでは少なくなっている。提言において、行政でできることできないことを整理するとき重要なデータでは。
- 気候が良いところを自慢したいのに、公園や歩道を整備してほしいということは、外に出たくても出れないことを不満に思っている、ということを示唆しているのでは。

（その他）

- 八戸圏域全体でのまちづくりについて、66%の人が「そう思う」と答えているので、圏域で循環する仕組みができれば良い。
- 就職の促進について、給料アップや福利厚生など、市で対応が難しいところもあるので、市で取り組めるインターンシップや子どものために使える休日を設定する企業などへの支援等に力を入れていけばいいのではないかと感じる。
- アンケートの各項目を掘り下げていけば、もっと見えてくる場所もあると思う。
- 給料アップなどを求めてもキリがない。軸を決めてそれに沿って提言を作っていくことが必要。



【目指すまちの姿について】

- ・今あるものを使って、子育て世帯が楽しめるまち。
 - ・楽しみ方やイベントなど、分かりやすい、情報が得やすいこと。
 - ・お金をかけすぎないこと。

 - ・子どもを育てる人、育てられる人が住みやすく、戻ってきたくなるまち。
 - ・そこに、シビックプライドや、子育て、にぎわいの要素を取り入れていけばよい。

 - ・子育てについて、帰る、暮らす、集まる、働くについて、知る、情報が得やすいこと。
 - ・「18年間」という数字があればよい。

 - ・子育てられる18年を過ごした人が、今度は、子育てをする18年間になっていくわけで、その循環を知ることが大事。
- 今後、取組内容を議論していく中で、決めていくことに。

【自由意見】

（子育て）

- ・親の言葉は残っているもの。そういうものを作って提案していければよい。
- ・八戸で子育てしてみたかったと思う。食べ物が美味しい。
- ・子育てする、られるの18年は非常に重要だなと思う。ここをサポートしていくことが必要。
- ・子育てや子育てられるなど、実感につながるようなことを提案できたらと思う。
- ・親が子育て支援を受けていたことを知らなかった。この子育てられを取組として作れば良いと思う。
- ・親と一緒にいけるとか、そういう安心感があると友達同士でも行けるようになる。
- ・働く女性が住みやすいまちになれば良いと思う。

（人材還流）

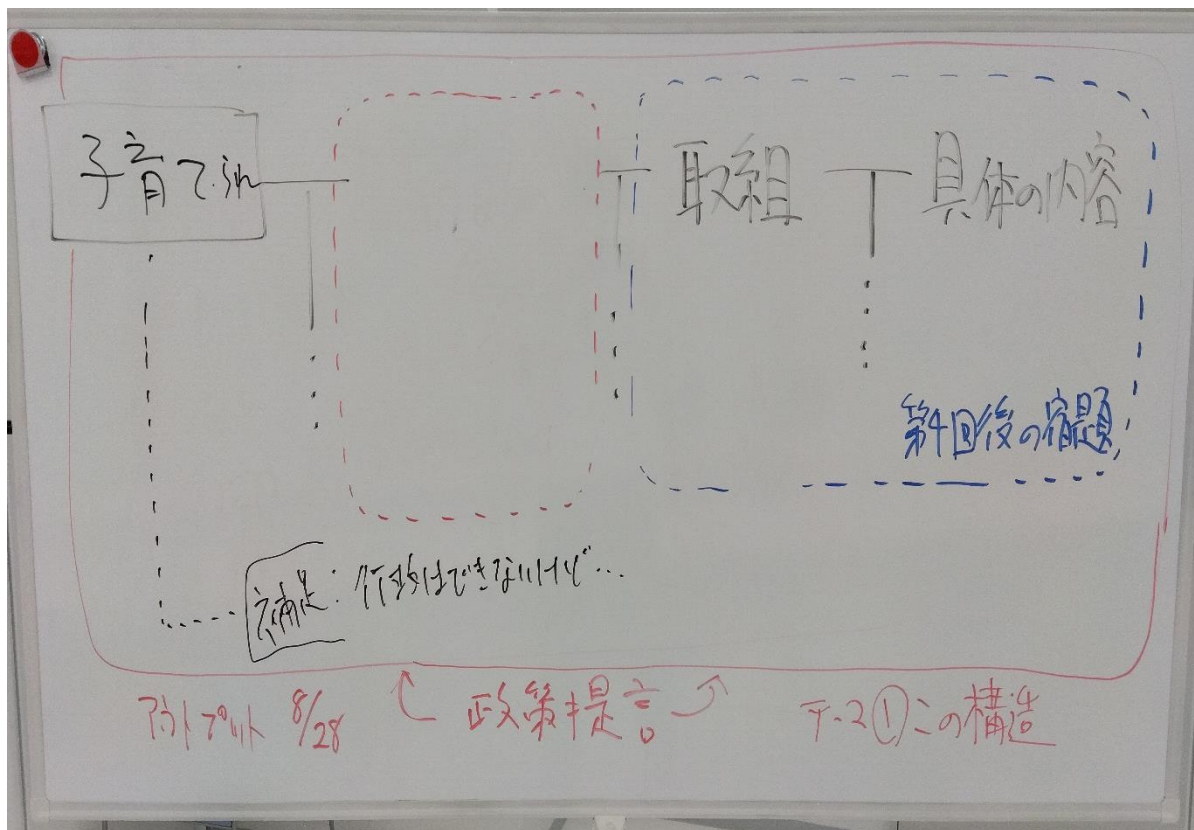
- ・東京に行った人が戻ってくることが多いのは、八戸で過ごした間に心に埋め込まれた時限爆弾が爆発する時。東京に出て行った人が帰ってくれば、地元の人には励まされる。そういう意味で人材還流もテーマに組み込みたいと思っている。
- ・戻ってくるかどうかは、18年の記憶でしか判断できない。18歳までに戻ってきたいと思えるようなまちにしていきたい。地元を知って、それを発信できるように。

（情報発信）

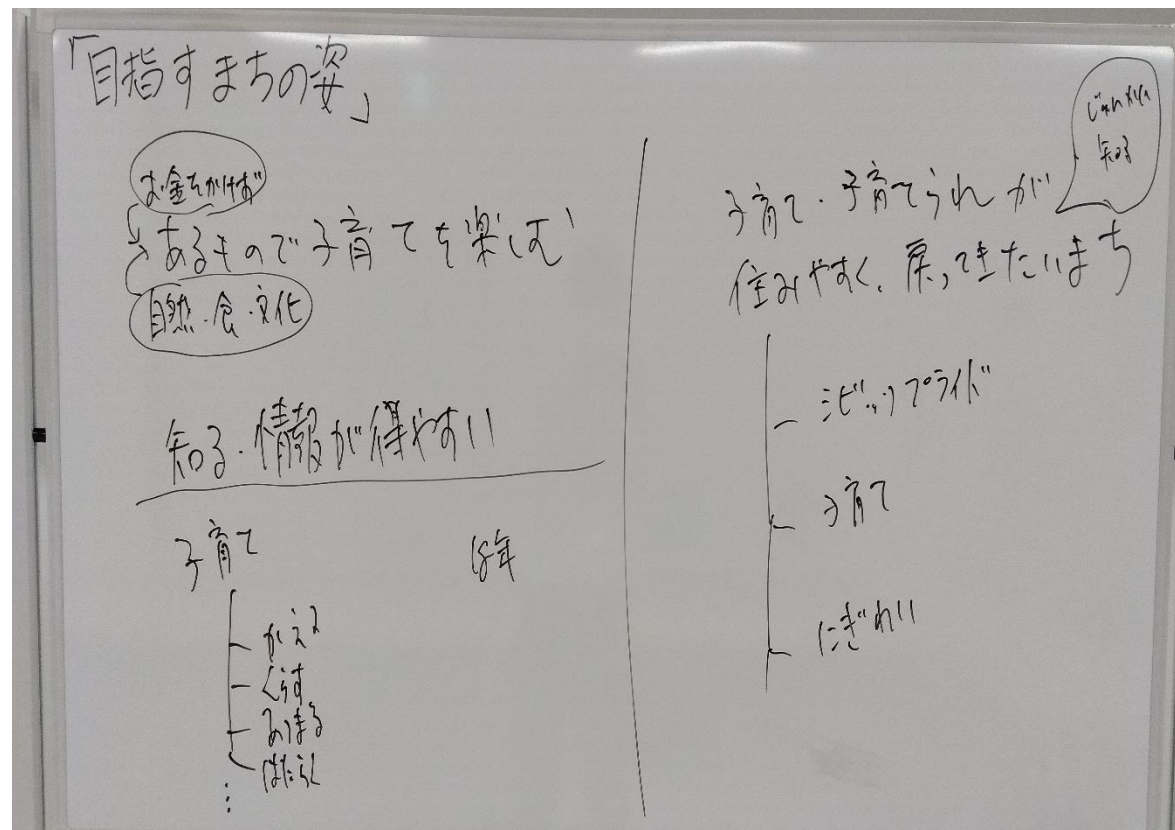
- ・情報発信に関して、意外なところ（例：銭湯の鏡の上）で発信しても良いのでは。



【政策提言の構造案】



【目指すまちの姿の案】





■ 若者や女性にとって魅力あるまちとは？

人材還流

- ① 学生の就職にあたっては多くの学生がうまくマッチングできて市外に流出しないまち
- ② 県外に進学した学生が、奨学金支援を受け地元に戻りやすく自立しやすいまち
- ③ 就職の際に戻ってきたいと思うまち
- ④ 世界中のどこにいても、心のよりどころであり、戻ってきたくなるまち

子育て

- ① 女性だけでなく、男性も子育てしやすいまち
- ② 子育てがしやすいまち
- ③ 八戸圏域で、子供連れで行きやすいお店の情報発信があるまち
- ④ 女性が働きながら子供を産み育てたくなるまち
- ⑤ 子育てする人が一番えらいまち

シビックプライド

- ① 伝統文化など地域のきらめく何かが地域の方に根差し、地方に暮らす意味を感じられるまち
- ② 地域コミュニティの充実が図られ、住みやすいまち
- ③ 住みやすいまちづくり
- ④ 昔の思い出がある場所が今も多く残っているまち
- ⑤ 自分のまちに対して、自信と誇りを持てるようなまち
- ⑥ 過干渉になりすぎないコミュニティがあるまち
- ⑦ ・大切な人がいるまち
- ⑧ 愛憎相半ばのまち
(関係人口の観点からもったいなさの可視化)

賑わい

- ① はっち市など、定期イベントが増えて、まちなかに人が集まるまち
- ② 中心街を中心にしたイベントや店が充実している
- ③ 人が集まっているまち (現状、おっさんには良いまち)
- ④ 見るだけで楽しめるまち
- ⑤ ホコテン等のイベント時だけでも中心街の駐車料金が無料になるまち

仕事

- ① 地域の伝統工芸などの継承がうまく引き継がれ、生業につながるようなまち
- ② 空き店舗の活用などにつながる創業支援があるまち

その他

- ① 街路や歩道が整備され安全安心なまち
- ② 若者・女性に焦点が当てられていると感じられる取組がある



■ その実現のために必要なことは？

	シビックプライド	子育て	賑わい	人材還流	仕事	その他
情報発信	若者や女性が興味あることに人を集めて、みんなが楽しんでいることをSNS等で発信 小さな子供連れがゆっくり食事できる店舗の情報やベビールーム等の情報の一覧化			中高生向けの情報発信		
デジタル	町内会のデジタル化 忙しい子育て中の方でも、必要な情報をすぐ見つけれられるようなシステムづくり（バーコードリーダーの活用等）					
仕組み・体験づくり		子供のために使える休日を与える企業等に補助金を出す等の支援 子ども同士の結びつきの維持		学んだ成果を地域に活かす体験作り（教育と地元企業とのコラボ） サマーキャンプやインターンなど、若い学生が地域の職業を知る機会づくり		
	教育課程の中で、子どもたちの体験の機会を増やす					
デザイン	何かあると予感させるデザイン、統一された綺麗で安心感のあるデザイン、広義と狭義のデザイン、視覚のデザイン					
八戸圏域	八戸圏域で連携し、単発ではなく継続的に人のつながりが維持・発展していく仕組みづくり、圏域単位でまちの課題を解決していくアプローチ					
意識・視点	意識・仕組み・政治参画					
	市の外側からのエネルギーをどう生かしていくかが重要					
	まちの仕組み自体を見直すような視点が必要					